

経営史学会関東部会大会

新規市場の創出と取引制度－エネルギー取引を中心に

日時：2009年7月18日(土) 13:30～17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎 515教室

司会 大森一宏(駿河台大学)

13:30～13:45 問題提起 「新規市場の創出と取引制度」 牛島利明(慶應義塾大学)

13:45～14:20 第1報告 「19世紀前半期カルカットにおける燃料市場の形成と石炭取引」
神田さやこ(慶應義塾大学)

14:20～14:55 第2報告 「上海電力市場の形成と二つの取引制度 20世紀初頭の石炭取引と電力取引」

瀬戸林政孝(慶應義塾大学グローバルCOE 研究員)

14:55～15:30 第3報告 「戦後日本の石炭市場における需要開拓と取引制度の再編」
島西智輝(立教大学)

15:30～15:45 休憩

15:45～16:15 コメント 杉山伸也(慶應義塾大学)、岡崎哲二(東京大学)

16:15～17:00 討論

【企画要旨】

本大会パネルでは、19～20世紀のアジアにおける石炭・電力取引を題材として、生産者・流通業者が新たな販路を開拓する際にどのような取引上の問題に直面したのか、また、その問題はどのような方法で解決されたのか(またはなぜ解決しなかったのか)について検討する。

既存の市場が存在しない、まったく新しい製品やサービスの取引においては、取引相手についての情報が不十分なだけでなく、個々の取引を行なう際に依拠することが可能な既存の取引制度は存在しない。このため、売り手、買い手は相対で交渉を重ね、試行錯誤で双方が歩み寄ることのできる取引条件・方法を模索する必要が生じる。また、このような状況の下では、取引に対する不満や取引相手への不信などの問題が発生する余地も大きいため、市場が成長するためには、安定的な取引制度をどのように生み出していくかが重要な課題となる。

同様の問題は、新しい製品の取引(新製品の新しい市場)だけではなく、既存製品の市場が存在しない地域・国に新たに進出する場合や、新しい用途の開発によって既存製品の新たな需要を開拓する場合(既存製品の新しい市場)、他製品の既存市場に対して代替財の供給によって参入する場合(他製品の既存市場)においても生じると考えられる。

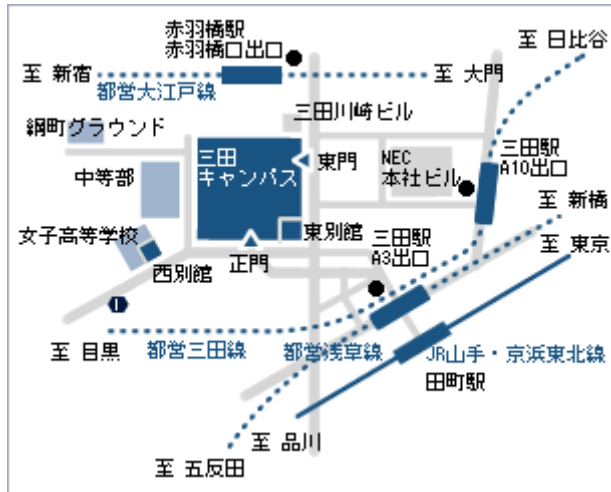
そこで本パネルでは、製品の新規性にかかわらず、既存の取引制度が存在しない状況において、新たな相手との取引が試みられる場合すべてを新規市場としてとらえ、異なる時代・地域における同種の製品(エネルギー財)の3つの事例を採り上げる。そして、それぞれの市場で発生した問題や取引形態の特徴(特定の相手との取引の継続性、取引条件の決定方法とタイミング、取引の確実な履行を支える手段、取引に仲介者を介在させるか否かなど)を検討することにより、新しい取引制度がどのような要因によって生み出されたのか、という点を明らかにしていきたい。

本大会は、慶應義塾大学経商連携グローバルCOEプログラムとの共催で開催されます。

【経営史学会関東部会大会 会場・交通機関のご案内】

慶應義塾大学三田キャンパス

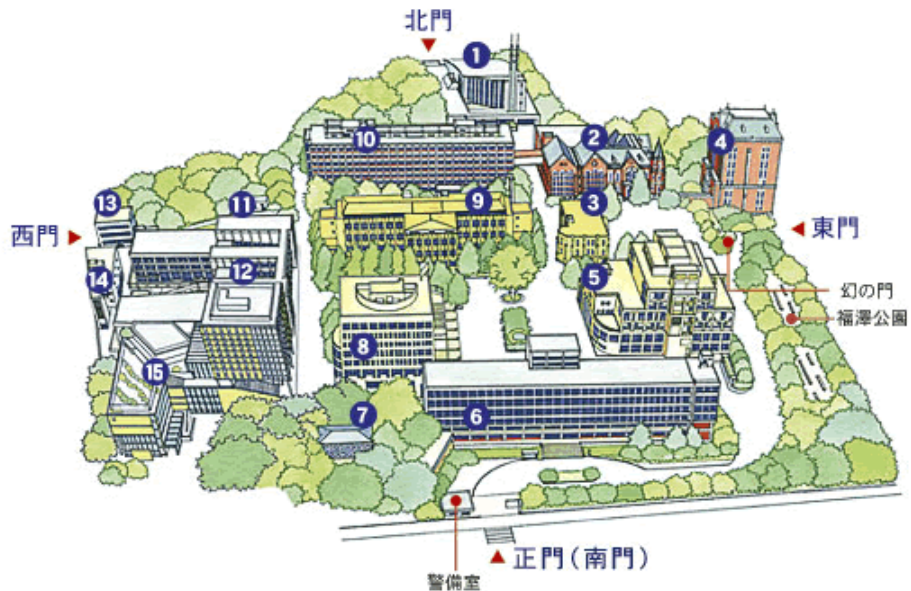
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45



交通アクセス

- ・JR 山手線、JR 京浜東北線 田町駅下車、徒歩 8 分
- ・都営地下鉄浅草線、都営地下鉄三田線 三田駅下車、徒歩 7 分
- ・都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車、徒歩 8 分

慶應義塾大学三田キャンパス構内図



大会会場の西校舎 515 教室は上図の 12 番の建物です。